

痛みに速く効く

ロキソニン<sup>®</sup>S

頭痛・生理痛

日本薬局方 ロキソプロフェンナトリウム錠

## このお薬は？

販売名	ロキソニンS LOXONIN S
一般名	ロキソプロフェンナトリウム水和物 Loxoprofen Sodium Hydrate
含有量(1錠中)	68.1mg (無水物として 60mg)
医薬品分類	第1類医薬品

## このお薬の効果は？

- このお薬は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤(NSAIDs)と呼ばれるグループに属する、解熱鎮痛薬です。
- このお薬は、痛み・炎症・発熱の原因物質「プロスタグランジン」の生成を抑え、痛みをやわらげ、熱を下げます。
- このお薬は、次の目的で服用いただけます。
  - 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛
  - 悪寒・発熱時の解熱

## このお薬を服用する前に、確認すべきことは？①

以下の項目をチェックして、本品が服用できることをご確認下さい。副作用(薬による有害な反応)として、胃・十二指腸潰瘍、重症喘息発作の誘発、発疹、むくみ等を起こす場合のあることが知られています。詳しくは、【このお薬の服用中に気をつけなければならないことは？】をご参照下さい。

## 次の人はこのお薬を服用することはできません

- 15歳未満の小児
- 過去に本剤又は本剤に含まれる成分でアレルギー症状等の過敏な反応を起こしたことがある人
- 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人  
【ロキソプロフェンナトリウム水和物、アスピリン(アセチルサリチル酸)、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンが配合されている解熱鎮痛薬やかぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人】
- 医療機関で次の治療を受けている人
  - 胃・十二指腸潰瘍 ●肝臓病 ●腎臓病 ●心臓病
- 医師から以下のような血液異常(血液の病気)を指摘されている人
  - 赤血球数が少ない(貧血)
  - 血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい)
  - 白血球数が少ない
- 出産予定日12週以内の妊婦

## このお薬を服用する前に、確認すべきことは？②

次の人はこのお薬を服用する際に注意が必要です。  
購入される前に医師、歯科医師又は薬剤師にご相談下さい。

- 医師又は歯科医師の治療を受けている人
- 妊婦(出産予定日12週以内の妊婦を除く)又は妊娠していると思われる人
- 授乳中の人
- 高齢者(65歳以上)
- 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- 次の診断を受けた人
  - 気管支ぜんそく ●潰瘍性大腸炎 ●クローン病
  - 全身性エリテマトーデス ●混合性結合組織病
- 次の病気にかかったことがある人
  - 胃・十二指腸潰瘍 ●肝臓病 ●腎臓病 ●血液の病気

## このお薬を実際に服用する前に、確認すべきことは？

- 本剤は、痛みや熱等の原因になっている病気そのものを治療するものではなく、発現している症状を抑えるお薬です。したがって、**症状がある場合だけ服用して下さい。**
- 1～2回服用しても症状が一向によくない場合は、他の疾患の可能性があるので服用を中止し、説明文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談して下さい。
- 長期連続して服用しないで下さい。** **3～5日間服用しても痛み等の症状が繰り返される場合には、服用を中止し、医師の診療を受けて下さい。**
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい。アスピリン(アセチルサリチル酸)、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンを配合している他の解熱鎮痛薬、かぜ薬及びアリルイソプロピルアセチル尿素、プロモバルレル尿素を配合している鎮静薬
- 服用前後は飲酒しないで下さい。  
【アルコール摂取時の服用は避けて下さい。】

## このお薬の使い方は？

- 服用量および回数  
成人(15歳以上)は、症状があらわれた時、1回1錠をなるべく空腹時をさせて、水又はぬるま湯で服用します。通常**1日2回まで**として下さい。**再度痛み等の症状があらわれた場合には3回目を服用することができます。**服用間隔は4時間以上おいて下さい。  
※服用に際しては、製品に同封されている説明文書を必ずお読みの上、用法・用量を守って、正しくお使い下さい。
- どのように飲むか？  
コップ一杯程度の水又はぬるま湯で飲んで下さい。
- 多く服用した時(過量服用時)の対応  
誤って多く服用した場合は、医師又は薬剤師に相談して下さい。

## このお薬の服用中に気をつけなければならないことは？

- このお薬のような解熱鎮痛薬を服用した後、過度の体温低下、虚脱(力が出ない)、四肢冷却(手足が冷たい)等の症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には、直ちに服用を中止し、説明文書を持って医師又は薬剤師にご相談下さい。
- このお薬を服用した後、消化性潰瘍(胃もたれ、胸やけ、背中への痛み)、むくみがあらわれた場合には、直ちに服用を中止し、説明文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい。また、まれに消化管出血(血を吐く、吐き気・嘔吐、腹痛、黒いタール状の便、血便等があらわれる)、消化管穿孔(消化管に穴があくこと。吐き気・嘔吐、激しい腹痛等があらわれる)、小腸・大腸の狭窄・閉塞(吐き気・嘔吐、腹痛、腹部膨満等があらわれる)の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

## 副作用は？

(1)服用後、以下の症状があらわれた場合は副作用の可能性が  
あります。このような場合は、直ちに服用を中止し、説明文書  
を持って医師又は薬剤師に相談して下さい。

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	腹痛、胃部不快感、食欲不振、吐き気・嘔吐、腹部膨満、 胸やけ、口内炎、消化不良
循環器	血圧上昇、動悸
精神神経系	眠気、しびれ、めまい、頭痛
その他	胸痛、倦怠感、顔面のほてり、発熱、貧血、血尿

(2)まれに起こる特にご注意ください副作用と、それぞれの  
主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの副  
作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が  
同じ時期にあらわれることが一般的です。その場合は、直ちに  
服用を中止し、医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかす れ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の 混濁等があらわれる。
血液障害	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうら が白っぽくなる、出血しやすくなる(歯茎の出血、 鼻血等)、青あざができる(押しても色が消えない) 等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症、 多形紅斑、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、 皮膚の広範囲の発疹・発赤、水疱が皮膚の赤い部分 にあらわれる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ (小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続 したり、急激に悪化する。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、 関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
うっ血性心不全	全身のだるさ、動悸、息切れ、胸部の不快感、胸が痛 む、めまい、失神等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れが する・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これ らが急にあらわれたり、持続したりする。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くな る)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわ れる。
横紋筋融解症	手足・肩・腰等の筋肉が痛む、手足がしびれる、力が 入らない、こわばる、全身がだるい、赤褐色尿等が あらわれる。
無菌性髄膜炎	首すじのつっぱりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き 気・嘔吐等があらわれる。(このような症状は、特に 全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の 治療を受けている人で多く報告されている)
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦 しい等があらわれる。

前記【このお薬の服用中に気をつけなければならないこと  
は？】にお示した自覚症状を、症状があらわれる部位別に並  
び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、前記  
(2)特にご注意ください副作用の表などをご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体温が平熱より下がる、力が出ない、全身のむくみ、からだ のむくみ、発熱、全身のだるさ、高熱、眠気、筋肉のこわばり

頭部	めまい、首すじのつっぱりを伴う激しい頭痛、頭痛、気を失う
顔面	顔色が青白い、鼻血、ほてり
眼	まぶたのうらが白っぽい、白目が黄色くなる、目の充血、目やに
耳	耳鳴り
口や喉	血を吐く、のどの痛み、歯茎の出血、吐き気、嘔吐、空せき(た んを伴わないせき)、口内炎、唇や口内のただれ、声のかす れ、くしゃみ、のどのかゆみ
胸部	胸やけ、息苦しい、動悸(どうき)、息切れ、胸部の不快感、 胸の痛み、呼吸がしにくい、ぜんそく(息をするとき ゼーゼー、ヒューヒュー鳴る)
腹部	胃もたれ、腹痛、胃の不快感、食欲不振、膨れあがる感じ、 消化不良、激しい腹痛
背中	背中(背)の痛み、肩・腰等の筋肉痛
手・足	手足の冷え、しびれ、関節痛(節々が痛む)、筋肉痛
皮膚	じんましん、青あざができる、発疹、発赤、広範囲の発疹・ 発赤、水疱が皮膚の赤い部分にあらわれる、赤くなった 皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、皮膚が黄色 くなる、かゆみ
便	黒いタール状の便、血が混じった便、下痢
尿	尿量が減る、血尿、褐色尿、赤褐色尿
その他	血圧が上がる、出血しやすい

(3)服用後、次のような症状があらわれることがありますので、こ  
のような症状の持続又は増強が見られた場合には服用を中止  
して、説明文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい。

口のかわき、便秘、下痢

## このお薬に含まれているものは？

有効成分	1錠中 ロキソプロフェンナトリウム水和物 68.1mg (無水物として 60mg)
添加物	ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸Mg、 乳糖水和物、三酸化鉄

錠剤により添加物による赤い斑点がみられることがあります

## その他

- この薬の保管方法は？
  - ・直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
  - ・小児の手の届かない所に保管して下さい。
  - ・他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)
- 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

## このお薬についてのお問い合わせ先は？

- 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせ下さい。

## 第一三共ヘルスケア株式会社

お客様相談室

〒103-8234 東京都中央区日本橋3-14-10

電話：0120-337-336

受付時間：9:00～17:00(土、日、祝日を除く)

- 症状、副作用等のより詳しい質問がある場合は、医師、歯科  
医師又は薬剤師にお問い合わせ下さい。



製造販売元

第一三共ヘルスケア株式会社

東京都中央区日本橋3-14-10

http://www.daiichisankyo-hc.co.jp/